

令和元年 11月5日
(2019年)

保護者の皆様

吹田市立山田第二小学校
校長 真部 美保

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成31年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページ（吹田市立教育センターホームページ）を通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であって、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

- ・すべての項目において全国値を上回っており、良好な結果であった。
- ・基礎的・基本的な国語に関する知識・技能が身につけていると考えられる。

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

◎「話すこと・聞くこと」領域

話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の考えをまとめる設問において、全国値を上回っている。また、目的に応じて質問を工夫する設問においては、全国値を上回っている。

◎「書くこと」領域

目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く設問において全国値を上回っている。だが、正答率は40%と低く、条件を満たしながら提示された字数で記述する設問には課題が見られる。

◎「読むこと」領域

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読む設問においては、全国値をやや上回っている。

◎「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域

学年別に漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う設問において全国値をやや上回っている。また、文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分ける設問においては、全国値を大幅に上回っている。

●国語における成果と今後の改善点について

どの項目においても、全国値を上回っているが、無回答率が全国値より上回る設問も見られたので、児童がどの課題に対しても自信をもって解答できるよう、指導していく必要があると考える。また、文の構成や接続語の役割を理解し、伝えたいことを条件に合わせて書く練習を行っていく必要がある。

○算数 《概要》

- ・すべての項目において全国値を上回っており、良好な結果であった。
- ・基礎的・基本的な算数に関する知識・技能が身につけていると考えられる。

○算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

◎「数と計算」領域

基本的な計算の平均正答率は全国値を上回っている。基本的な四則計算はできるが、計算の工夫について与えられた言葉を用いて表現することに課題が見られる。

◎「量と測定」領域

「単位量当たりの求め方」「グラフから関連して判断できること」の平均正答率は全国値を上回っている。「面積の求め方」では、示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する設問に課題が見られる。

◎「図形」領域

図形の性質や構成要素については全国値を上回っている。二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺どうしを合わせてつくることのできる形を選ぶ設問について課題が見られる。

◎「数量関係」領域

グラフや資料の特徴や傾向を読み取ることは全国値を上回っている。グラフから数量の大小を判断して、その判断の理由を説明することには課題が見られる。

○算数における成果と今後の指導改善点について

算数への関心・意欲・態度は比較的高く、出題された学習内容についても基礎的なことについてはおおむね理解し、答えることができている。だが、記述が必要とされる設問に課題が見られたので、図や数式、言葉などの決められた条件を基にして、求め方を文に表す機会を増やしたい。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【規則正しい生活習慣】

「毎日朝食をとっている」9割、「朝食をまったくとっていない」0人。また、「決まった時間に就寝する」9割、「決まった時間に起床している」9割4分。この結果から、ほぼ規則正しい生活習慣が身についていることがわかる。

【自己肯定感】

「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」という項目では、ほぼ8割8分の児童が肯定しており、全国値を上回っている。しかし、「学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことはありますか」という項目に対しては8割4分程度に留まっている。自己肯定感が高いといえるが、学校生活の中で、協力する喜びや達成する感動を育てていく取り組みを設定する必要がある。

【家庭生活の様子・家庭学習】

「家では自分で計画を立てて勉強していますか」という項目に対して自信をもって肯定的に答えられている児童の割合が低い。児童自らが課題を設定し、進んでそれに取り組む、自学自習の習慣が身につくような機会を設定する必要がある。「読書はするか」「読書は好きか」「新聞を読んでいるか」といった活字を読む活動においては、全国よりも肯定的な回答が多い。また、学校図書室や地域の図書館の利用頻度に関しても全国よりも肯定的な割合が高い傾向がみられた。それは、朝読書や読み伝えをはじめとした、児童による主体的な図書館利用・読書活動に取り組んできた成果といえる。

【学校生活・授業】

「学校に行くのは楽しいと思いますか」という項目では、8割4分以上の児童が肯定している。児童が自分の考えを表現できる場を設定するだけでなく、有意義な学校生活を送ることができるように継続的に授業改善を行いたい。

「人が困っているときは、進んで助けているか」、「人の役に立つ人間になりたいと思うか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の項目では、9割以上の児童が肯定している。だが、1割弱の児童は否定的にとらえている。規範意識とともに健全な正義感が育まれていく取り組みを増やす必要がある。

国語科の、「国語の勉強は大切だと思いますか」という項目では、9割以上の児童が大切だと考えており、意欲的に学習に取り組む様子がうかがえる。一方で「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」という項目では、8割弱に留まっている。授業の中で、話し方や書き方の見本を提示したり、文章の構成や書き方を工夫した点について交流したり助言しあったりする活動などを通して、学習の向上に努めていきたい。

算数科に関しても、「算数の勉強は大切だと思うか」という項目に対して、9割以上の児童が肯定している。また算数科の問題において、9割の児童が「理由を書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と意欲的に取り組んでいる様子がうかがえる。これからも算数科において実生活の中で活用できていると感じられるような授業を設けられるように努めていきたい。